

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	京都産業大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	キョウトサンギョウダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	近畿地方(大阪府を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ3
	学部・研究科等名	共通教育推進機構
	担当教職員名・役職	■教員:10名 東田(経営)、松高(経営)、木原(現代社会)、玉田(コン理工)、横森(全セ)、小山(全セ)、上原(全セ)、西岡(全セ)、湯口(全セ)、松尾(共通教育推進機構) ■職員:キャリア教育研究センター 4名 松本、穂崎、森下、阿部
受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	206	
受入企業等数	144	
受入企業等名	丸善雄松堂(株)、他143社	
インターンシップの分類	5.他県をまたぐ広域インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業等における業務への従事のみならず、卸売・小売業では「商談資料の作成と営業同行」、製造業では「業界の歴史と現状を踏まえたうえで業界が抱える課題に対する解決策の提案」等、企業が個々に抱える課題を、学生にインターンシップのテーマとして提供されるケースもある。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	4単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本科目は、全学部3年次生を対象に、共通教育科目(キャリア形成支援教育科目)の選択科目又は選択必修科目として開講し、4単位を付与している。授業期間は、「事前学習(15コマ)」春学期、「就業体験」夏期休業期間中、「事後学習(5コマ)」夏期休業期間中に実施しており、学期内で完結できない科目特性があるため、「通年集中」科目として開講している。
	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している 5.その他
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	事前学習において実施する、ビジネスマナー講義(電話対応・ビジネス文書の作成等)の実践および、事前学習で設定した目標等を踏まえて、実習生が事前に企業訪問を行い、目的・目標の擦り合わせ等も行う。

要素③	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前学習は、200名を超える学生が一堂に介する「全体授業」、少人数のディスカッションで学びを深める「クラス授業」で編成し、「ビジネスマナー」「目標設定」「企業・業界研究」の3つを柱にプログラムを構築。また、最終日には、ハラスメントをテーマとした「人権研修」、守秘義務をテーマとした「情報倫理講義」、実習生への期待をテーマとした「受入企業担当者によるご講演」等、合計15コマの事前学習を行っている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	事後学習は、クラス授業において「成果の振り返り」「他者への共有」を通じて、就業体験の学びを深め、将来のキャリアビジョン形成や今後の学生生活の目標設定を行っている。また、事後学習最終日には、受入企業の方に来学いただき「成果報告会」を実施。成果報告会終了後には、企業担当者・教職員・学生が本音で語り合う「懇親会」を実施している。
要素④	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	学生の実習期間中に企業を訪問し、企業担当者に「学生の取り組み状況」等をヒアリングした後、実習生が訪問先で実習している際は、「実習内容」「業務の進捗状況」「実習における学び」等についてヒアリングをしている。本学では、200名を超える学生が同時期に集中し、実習に参加していることから、全ての企業を訪問することは難しく、平成29年度は岐阜県から広島県までの広域に跨り、受入企業約40社を訪問した。
	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
要素⑤	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学生アンケートは、「事前学習」「就業体験」「事後学習」の3部で構成し、各プログラム終了後に調査している。本アンケートは、プログラムの振り返りや今後の改善に役立てることを目的とし、調査概要は満足度調査と理解度調査に加え、プログラムの意図が理解されているかを分析・検証する内容となっている。レポートは、「実習前」「実習後」の2回学生が作成し、学生の意識や行動の変容について確認をしている。
	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5～10日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
要素⑥	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	一部の例外企業を除き、実施期間10日間以上の期間で学生を実習に送り出している。
	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している 6.企業と協働して、PDCAを実施している
6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)		

	6-3. 上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業開拓時に、企業・大学それぞれのニーズを擦り合わせ、企業任せではなく協働で実習内容を作成している。また、実習後に企業から「実習生評価票」「アンケート」を提出いただき、その内容をもとに企業を訪問し、振り返りや次年度に向けた改善等についての擦り合わせを行う。その他、学生アンケートにおいて、事前の擦り合わせ内容と実態に即さない実習内容を提供した企業がある際は、現場見学まで踏み込んで行うこともある。
	7. 上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus/html/2017/29.html
問い合わせ先	大学等名	京都産業大学
	担当部署名	キャリア教育センター
	担当者役職名	
	担当者氏名	
	電話番号	075-705-1754
	メールアドレス	cwie-center@star.kyoto-su.ac.jp